

薬の副作用

医者の年を取るうちに、思いがけないことに出会う。いつのまにか臆病になる。

60歳のK子さん。急に、グルグル回るめまいがした。吐き気がして、動くこと吐いた。血圧も驚くほど高い。そんなひどいめまいほど、命に関わらない病気。良性頭位めまいが疑わしい。いつのもように、めまいと吐き気止めの注射をした。

しばらくして、K子さんは急に意識を失って倒れてしまった。「アナフィラキシーショック」である。吐き気止めの注射薬によってアレルギー反応が起き、血圧が急に下がって失神したのだ。対応が遅ければ、死に至る。

アナフィラキシーショックの原因として、個人に特定の食物や、蜂に刺されることはよく知られている。もちろん、薬も原因になる。注射薬だけではない。飲み薬でもアナフィラキシーショックは起きうる。どんな薬にも副作用があることは周知だ。

だが、吐き気止めの薬は、使い慣れた薬である。特殊な副作用を起こしやすい薬剤

のように、使う前にテストをすることはない。でも、非常に稀とはいえ、ショックが起きるときは起きるのである。以来、ワツシーは、吐き気止めの注射薬は使ったことがない。いや、使えなくなったのだ。

と、ここで気になるのは、コロナのワクチンのことだ。ワクチンによっては予防効果が90%以上もあるとされ、すでに英国では接種が始まっている。日本でも今年度中に、接種が可能になるという。が、治療期間が短く、副作用の危惧が拭いきれない。ある調査によると、日本では接種に同意する人が69%と低いそうだ。

ところで、ワクチンの接種は優先的に医療従事者や高齢者からといわれている。ま、ワツシーが実験台になるのは、先の短い医者のお務めかもしれない。武者震いがしてゐる。

(石黒修三川いしへろクリニック・脳神経外科専門医…12/15北國新聞掲載)